

paw[®]
PureAnimalWellbeing
by BLACKMORES

動物用医薬品 犬用外皮用剤

メディダーム[®]



【成分及び分量】

品名	メディダーム
有効成分	ピロクトンオラミン
含量	100g(96mL)中ピロクトンオラミン0.70g

【効能又は効果】

犬:マラセチア皮膚炎

【用法及び用量】

温湯を使って前洗した後、下記の量を取り、体表にまんべんなく塗布する。全身をマッサージしながら泡立たせた後、約5分間放置する。温湯で全身を十分にすすぎ、洗い落とす。1週間に2回、3週間を目安に使用する。

体重	投与量
10kg 未満	15～25mL
10～20kg 未満	25～40mL
20～40kg 未満	40～60mL
40kg 以上	50～75mL

【使用上の注意】

(基本的事項)

1.守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。なお、用法・用量に定められた期間以内の投与であってもそれを反復する投与は避けること。
- ・本剤は獣医師の適正な指導の下で使用する。

(使用者に対する注意)

- ・使用後は、石けん等で手をよく洗うこと。
- ・使用時にはゴム手袋等を着用すること。
- ・肌が荒れることがあるので、本剤が直接肌に触れた場合はよく洗い流すこと。

(犬に関する注意)

- ・本剤の妊娠中の投与に関する安全性は確立していないため、妊娠犬または妊娠の可能性のある犬には使用しないこと。
- ・2.5kg未満の犬には使用しないこと。
- ・本剤は生後5か月齢未満の犬には使用しないこと。
- ・本剤は外用以外に使用しないこと。
- ・粘膜面及び耳には使用しないこと。
- ・眼の周囲には注意して使用すること。眼に入った場合には直ちに流水を使用して十分洗浄すること。眼に異変が認められた場合は獣医師の診察を受けること。

(取扱い上の注意)

- ・変色が認められた場合には使用しないこと。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- ・誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。

2.使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。

(犬に関する注意)

- ・本剤の投与により炎症、紅斑、痒みなどの症状が認められた場合には、速やかに使用を中止し、獣医師の診察を受けること。

【使用期限】 ラベル参照

【貯法】 室温保存

【包装】 200mL、500mL

【製品情報お問い合わせ先】

日本全業工業株式会社 CA事業部
〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1
TEL:024-945-2332

製造販売元(輸入発売元)

ZENOAQ 日本全業工業株式会社
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

製造元

デルタラボラトリーズ社
(オーストラリア)

提携先

ブラックモアズ社
(オーストラリア)



本品は、公益社団法人アニマル・ドネーションのオンライン寄付サイト「アニマル・ドネーション」と連携して、製品を1本ご購入頂くごとに、10円が支援先団体へ寄付されます。

マラセチア
外皮用剤に、
新しい選択肢。

皮膚に優しい
ピロクトンオラミン
配合。

MEDIDERM[®]
動物用医薬品 犬用外皮用剤
メディダーム[®]

5
minutes
contact



有効成分ピロクトンオラミンが 「安全性」と「有効性」を両立。

【メディダームの特長】

1 増殖したマラセチアを減少させるピロクトンオラミン配合

有効成分のピロクトンオラミンが、金属イオン(特に鉄の結合)に対するキレート作用を有し、皮膚で増えたマラセチアを減らします。

2 安全性 & 低刺激性

臨床試験や安全性試験の実施により、特記すべき有害事象は認められませんでした。また刺激性試験により、ピロクトンオラミンの皮膚への刺激性が低いことが評価されました。

3 無香料タイプ

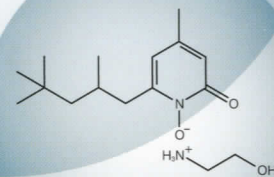
香料を使用していない動物用医薬品です。

4 サルフェートフリー

皮膚・被毛にダメージを与えるとされるサルフェート(硫酸系界面活性剤)を含有しておりません。

ピロクトンオラミンとは...

ピロクトンオラミンは、西ドイツのヘキスト社において初めて合成されたヒドロキシピリドン系の合成抗菌剤です。金属イオン(特に鉄の結合)に対するキレート作用を有しており、細菌・真菌の鉄依存性の代謝酵素から鉄を奪い阻害することで、抗菌及び抗真菌作用を示します。



安全性試験

12～16か月齢のビーグル犬を対象として、メディダームをそれぞれの犬の体重に応じ、常用量群、5倍量処置群及び無投与対照群を設定し、安全性試験を実施しました。処置は1週間に2回、3週間の計6回実施しました。

観察期間を通じて元気、食欲、糞便及び体温に特記すべき異常は認められませんでした。

皮膚の観察(腋窩、内股、腹部、脇腹の4カ所について炎症及び紅斑、浮腫、フケ、掻痒、その他の状態を評価)したところ、炎症及び紅斑については、対照群を含む全ての群で散発的に見られましたが、群間の有意差は見られませんでした。体重、血液学的検査(赤血球数、白血球数、Hb、Ht)および血液生化学的検査(AST、ALT、CPK、BUN、TP、ALB)について、特記すべき所見は認められませんでした。

【5倍量群】内股写真



【処置開始前】



【1週間に2回3週間、5倍量を6回処置後】

臨床試験

国内の動物病院において、患部が真皮深部まで及んでいない比較的中度～中等度のマラセチア皮膚炎に罹患した犬に対して臨床試験を実施しました。試験群について犬の体重から投与量を換算し、メディダームを1週間に2回、3週間の計6回処置しました。対照群には国内類似製品を用いました。

皮疹の観察による評価

発赤、丘疹／膿疱、痂皮、脱毛について観察を行い、スコア化(皮疹の程度と症状の範囲の合計値)して効果比較を行いました。

(皮疹スコア)

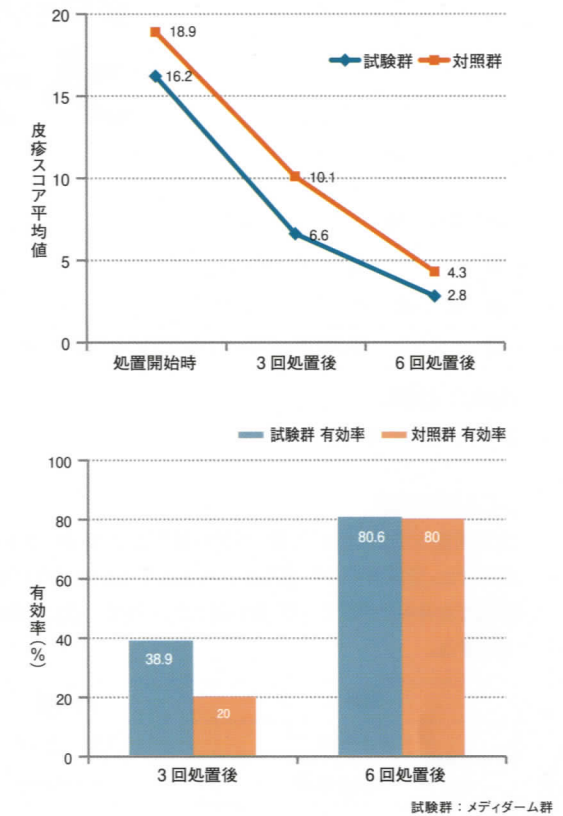
3回処置後で各群とも処置開始時に比べ有意な低下がみられました。また発赤スコアで試験群が対照群に比べ低く有意な差がみられました。

6回処置後で各群とも処置開始時に比べ低く有意な低下がみられました。また脱毛スコアで試験群が対照群に比べ低く有意な差がみられました。

(効果比較)

処置前後の合計スコアから改善率を算出し、4段階(著効、有効、やや有効、無効)での効果判定を行いました。著効または有効判定の症例数から有効率を算出しました。

3回及び6回処置後の効果判定では試験群、対照群共に平均改善率が開始時より上昇し、6回処置後では80%以上の有効率が確認されました。



皮膚・被毛の観察による評価

脂漏及び臭い、フケ、掻痒、毛艶、被毛の柔軟性・保湿性について観察を行い、スコア化して効果比較を行いました。

(皮膚・被毛スコア)

処置前後の比較では各群とも3回処置後で処置開始時に比べ有意な低下がみられました。また群間の比較では脂漏・臭い及び合計スコアで試験群が対照群に比べ低く有意な差がみられました。

処置前後の比較では各群とも6回処置後で処置開始時に比べ有意な低下がみられました。また群間の比較では毛艶、柔軟・保湿性及び合計スコアで試験群が対照群に比べ低く有意な差がみられました。

(効果比較)

処置前後の合計スコアから改善率を算出し、4段階(著効、有効、やや有効、無効)での効果判定を行いました。著効または有効判定の症例数から有効率を算出しました。

3回及び6回処置後の効果判定では試験群、対照群共に平均改善率が開始時より上昇し、6回処置後では80%以上の有効率が確認されました。

